

第1学年2組 音楽科学習指導案

平成28年11月4日(金) 第5校時
男子19名 女子18名 計37名
場 所 音 楽 室
授 業 者 早 坂 幸 恵

1. 題材名 アルトリコーダーの音色を感じよう

2. 題材設定の意図

リコーダーは生徒たちにとって取り組みやすい楽器である。生徒たちは小学3年生からソプラノリコーダーに取り組みしており、様々な曲を演奏したり、アンサンブルをしたりしてきた。本題材で生徒は初めてアルトリコーダーに挑戦する。リコーダーの奏法は、呼吸のコントロールと運指、タンギングを関連させることが大切である。ソプラノリコーダーとは違うコントロールが必要であることを理解させ、基本的な奏法を身に付け演奏することで、リコーダー特有の音色を感じさせたい。

本学級の生徒は、明るくまじめな生徒が多い。合唱コンクールに向けての練習では、指揮者・パートリーダーを中心に仲間と協力してより良い合唱にしていこうという意識が高い。しかし、リコーダーの授業では小学校から苦手意識をもっている生徒も少なくない。意欲的に授業に参加できるよう、一人ひとりの技術に合わせて指導できるよう展開を工夫したい。

3. 学校課題研究「確かな学力をつけさせるための授業改善の研究 ～五感に訴える ICT の効果的な活用～」との関連

音楽科において、視聴覚機器などの ICT 機器はなくてはならないものである。昨年度の箏の授業では実物投影機で教員の指の形を映し出し模範演奏を見せたり、合唱やアンサンブルの授業では自分たちの演奏を振り返るためにタブレットで録画したものをテレビに映したりした。

本時の授業では、タブレットと実物投影機を使用する。

4. 題材の目標

アルトリコーダーの基礎的な奏法を身に付け、音色を生かして演奏できるようにする。

5. 本題材と学習指導要領とのかかわり

中学校学習指導要領の内容

「A 表現」 (2) 器楽 イ 楽器の特徴をとらえ、基礎的な奏法を身に付けて演奏すること。

〔共通事項〕 ア リズム 旋律 音色

イ 四分の四拍子 四分音符 八分音符 Moderato

6. 教材について

「リズム de ゴー」 金子健治 作曲

「喜びの歌」 ベートーヴェン 作曲

「オーラ・リー」 プールトン 作曲 金子健治 編曲

初めてのアルトリコーダーを演奏する生徒にとって取り組みやすい3曲である。左手のみで演奏でき、タンギングや運指の練習をしながら、リコーダー特有の響きを感じることができる。

7. 題材の評価規準

ア 音楽への関心・意欲・態度	イ 音楽表現の創意工夫	ウ 音楽表現の技能
① アルトリコーダーの特徴(楽器の構造や奏法、その楽器固有の音色や響き、よさなど)に関心をもち、基礎的な奏法(楽器の初歩的な演奏方法)で演奏する学習に主体的に取り組もうとしている。	① 音楽を形づくっている要素(音色、リズム、旋律)を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じ取りながら、曲想を感じ取って音楽表現を工夫し、どのように演奏するかについて思いや意図をもっている。	① 楽器の特徴を捉えた音楽表現をするために必要な、基礎的な奏法などの技能(奏法、呼吸法、姿勢や身体の使い方)を身に付けて演奏している。

8. 題材の指導と評価の計画(2時間扱い)

時	○学習内容 ・学習活動	○指導上の留意点 ◆題材の評価規準【評価方法】 ◎ICTの活用と期待する効果
1 本 時	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> 第1次の目標：旋律を吹くための運指、曲の雰囲気に合った息のコントロールができるようにする。 </div>	
	○リコーダーの特徴をとらえる。 ・ソプラノリコーダーとアルトリコーダーの違いを確認する。 ○アルトリコーダーを演奏する姿勢とタンギングの確認をする。 ・「リズム de ゴー」をタンギングに注意して演奏する。 ○アルトリコーダーの基礎的な奏法を意識しながら演奏する。 ・左手の運指の確認をする。 ・「喜びの歌」を演奏する。	○ソプラノリコーダーとアルトリコーダーでは大きさのほかに指使いも違うことを伝え、運指表を確認しながら練習するよう伝える。 ○楽器を演奏する上で大切になる姿勢について説明する。 ○音域や音のイメージでタンギングの発音を変えるよう説明する。 ◎様々なリズムの伴奏音源を再生しておき、曲想にあった奏法で表現する面白さを体験させる。 ○指使いとタンギングに注意し演奏するよう伝える。 ◎実物投影機で教員の手元を写し、細かい指の使い方をわかりやすくする。 ◆ア①【発言の内容や活動の観察】 ◆ウ①【演奏の聴取】
2	○前時の復習をする。 ・演奏するときの姿勢やタンギングを確認する。 ○アルトリコーダーの基礎的な奏法を意識しながら演奏する。 ・「オーラ・リー」を演奏する。 ○リコーダーアンサンブルをする。	○アルトリコーダー2時間目なので、姿勢やタンギングについて再び説明する。 ○指使いとタンギングに注意し演奏するよう伝える。 ○音色や響きを確かめながら、演奏するよう伝える。 ○グループで協力し合いながら練習に取り組みせる。

	<ul style="list-style-type: none"> ・グループに分かれて演奏する。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆イ①【発言の内容や活動の観察】 ◆ウ①【演奏の聴取】
--	---	--

9. 本時の学習指導（1／2時）

- (1) 目 標 旋律を吹くための運指、曲の雰囲気合ったタンギングや息のコントロールができる。
曲の雰囲気を感じ取り、ふさわしい奏法でアルトリコーダーを演奏できる。

(2) 展 開

学習内容 ・学習活動	○指導上の留意点 ◆題材の評価規準【評価方法】 ◎ICTの活用と期待する効果	時間
1 本時の授業の説明をする。	○本時は初めてのアルトリコーダーの授業になることを説明する。	2
2 アルトリコーダーとソプラノリコーダーの違いを確認する。	○大きさ、音程、運指などのアルトリコーダーとソプラノリコーダーの違いを説明する。	5
3 アルトリコーダーを演奏する姿勢を確認する。	○椅子の座り方やリコーダーの角度を確認させる。 ◎タブレットPCを使用し、良い手本となる生徒をテレビに映すことで、ポイントを具体的に示し、全体で共有する。	5
4 タンギングに気を付けて音を出す。 ・「リズム de ゴー」を演奏する。	○様々な息遣いと発音でリコーダーの音を出させ、どうすれば良い音色が出せるかを確認させる。 ○教員が手本となり、生徒が追いかけて演奏する。その後、生徒がローテーションで手本となる。 ○タンギングに注意して演奏するよう伝える。 ◎様々なリズムの伴奏音源を繰り返し再生しておき、曲想にあった奏法で表現する面白さを体験させる。	15
5 「ドレミファソ」の運指を確認する。	○ソプラノリコーダーと運指が違うので注意するよう伝える。 ○再び、「リズム de ゴー」を演奏し、運指の移動に慣れる。 ◎実物投影機で教員の手元を写すことで、細かい指の使い方が拡大され運指の移動が見やすくなる。	10
6 「オーラ・リー」を演奏する。	○階名と運指を確認させる。 ○曲になっても良い音色で吹けるよう意識させる。 ◆ア、ウ【観察】	10
7 次時の内容の確認をする。	○次時もアルトリコーダーを使用することを伝える。	3